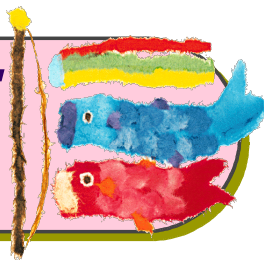


ケロちゃん通信

2019年 5月 第47号



ながおか医療生協 あたごこどもクリニック

〒940-0038 長岡市琴平1丁目2-1
電話番号 0258-36-5810
<http://www.nagaoka-iryousaikyou.jp/>

診療案内

一般診察の受付開始は午前8時30分、午後15時30分からです。

☆一般診療

直接来院の場合は、診療時間内に受診してください。
予約希望の場合は、前日0:00からスマホ、携帯、PCより予約システム
でご予約ください。
付き添いのお母さん等が体調不良の時も、お気軽にご相談ください。
緊急の場合や、特別な相談がある場合には、まずお電話ください。

☆**予防接種、乳児健診**：スマホ、携帯、PCより予約システムでご予約
ください（2ヶ月後の予約までできます）。今まで通り、窓口または電話で
ご予約もできます。

☆専門外来

①**発達外来(第1金・第3火13:30~15:30、その他の火・金13:00予約制)**
小児神経専門医による診療を行っています。言葉が遅い、コミュニケー
ションがとりづらい、落ち着きがない、かんしゃくを起こしやすい等の
発達障害をご心配されている方、ひきつけ、チック、夜尿症などの発達
や神経に関する心配がある方は、お気軽にご相談ください。
②**アレルギー外来(第1金 9:30~11:20 13:40~15:20、第3金 9:30
~11:20 予約制)**
アレルギー専門医による診療を行っています。食物アレルギー、ぜんそ
く、アトピー性皮膚炎、花粉症等で心配がある方は、ご相談ください。

☆発達外来、アレルギー外来受診希望の場合には、電話で予約をお願いい
たします。(ネット予約はできません)

☆生協こどもクリニックとも協力して診察を行っています。病児保育室
「すこやか」を利用希望の方は、当院を窓口にして利用することもでき
ます。

☆ 桜も散り、新緑の5月です。クリニック前に新しい低木のプラ
ンターも設置されました。4月からの入園や入学で新しい集団生
活に入り、いきなりお熱をだしたり体調を崩されるお子様も多く
おられました。5月に入ると、集団生活にうまく適応できない問題
も目に見えてくる季節です。ご心配なことがあればご相談くださ
い。

☆ 5月8日より、朝の診察予約枠を増やします。
受付開始は8:30のままですが、予約枠を8:45からにさせていた
だきます。

☆ 5月8日より、予防接種予約枠を増やします。
平日17:00枠、土曜日11:30枠を増やし、より遅い時刻でも接種で
きるようにします。ご利用よろしくをお願いします。

☆ 5月より発達外来、アレルギー外来の時間が下記のように変
更になります。一般外来と一緒にならないアレルギー外来の時
間(第1金午後)を設けるためのものです。

発達外来：第1金曜日 第3火曜日 13:30-15:30

その他の火曜日、金曜日13:00

アレルギー外来：第1金 9:30-11:20 13:40-15:30

第3金 9:30-11:20

GWの診療 4月30日(火)、5月2日(木)は診療を行います
(8:45-12:00 15:00-17:00)。

午後はいつもと違い15:00~17:00までなのでご注意ください

5月の診療予定

本間医師 (10日午前・午後 24日午前)



百日咳

< 百日咳とは >

- 百日咳は、百日咳菌の飛沫感染によって発症し、潜伏期間は7-10日間くらいです。
- 最近、学童での集団発生や成人での報告も増えてきています。免疫のない乳児の感染は、兄・姉、両親が感染源になることが大半です。百日咳が免疫のない新生児や乳児に感染すると重症化し生命にもかかわる場合もあります。

< 症状 >

- 百日咳の症状は、咳、鼻水といった症状から始まり（カタル期1-2週間）、通常の鎮咳薬では治まらず徐々に咳嗽が強くなっていきます。その後（痙咳期3-6週間）、発作性の連続する咳込み（staccato）や、吸気性笛音（whoop）、咳込みによる嘔吐、眼瞼浮腫などの特徴的な症状を認めるようになります。発熱はないか、あっても微熱程度です。ワクチン未接種の新生児や乳児期早期では重症化し、無呼吸発作、呼吸不全、脳症などを合併し命にかかわることもあります。
- 年齢やワクチン接種歴などにより、症状は典型的でないことも多く、ワクチン接種児や成人は特有の症状に乏しく、未診断のまま感染源になっていることも多いです。疑わないと診断が難しい疾患です、

< 診断・検査 >

- 百日咳の診断は、上記症状に加え、発症から急性期の2-3週以内では分離・同定による病原体の検出または咽頭ぬぐい液等による遺伝子診断（PCR法またはLAMP法）で診断されます。発症から2-3週以降は、血清診断が可能で、百日咳菌抗体（PT-IgG、IgM抗体）価でも診断できます。
- 鑑別診断として感染性気管支炎のほかに、発熱を伴わないことが多いため、喘息などのアレルギー疾患と区別が難しい症例もあります。

< 治療 >

- 治療法は、マクロライド系の抗菌薬（クラリスロマイシン、エリスロマイシン等）になります。5-7日間の使用で菌は陰性化します。通常のペニシリン系やセフェム系が効かないのも特徴です。ただ痙咳期になると抗菌薬のみでは改善しないことも多いです。

< 予防 >

- 百日咳は4種混合ワクチン4回の定期接種で免疫はつきますが、その後年齢とともに免疫力は低下し、5歳以降になるとふたたび百日咳にかかりやすい状況になります。その後の抗体値の研究結果では、年齢とともに抗体値は上昇していきますが、これは百日咳に自然感染しているためです。気づかないうちに百日咳にかかっているのです。欧米では5歳過ぎにもう1回、ワクチン接種をしている国が多いですが、日本では定期接種になっておらず定期接種化が望まれています。

< 登園・登校の基準 >

- 特有の咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌薬による治療が終了するまでは、自宅療養してください



兼六園